

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生



第70回

ダイオウ

学名の*Rheum australe*からヒマラヤ地方南部に自生するダイオウと判ります。ダイオウは葉が掌状、即ち掌を広げた形が上品と言われていますが、本種は広い単葉にもかかわらず古くからチベット仏教、アユルベータ医学等において循環器系、消化器系、内分泌系、呼吸器系等に関連する疾病治療に用いられてきたと最近の論文が紹介しています。



Rheum australe.

1745

F. Guimpalfee

Rheum属に共通する成分、アントラキノン配糖体類、スチルベン類、縮合型タンニン等多彩です。それらの中でアントラキノン類が便秘薬として機能します。アントラキノン配糖体類は腸内細菌により加水分解され、さらに還元を受けてアンスロンタイプとなり、この物が腸を刺激し下剤の効果を発揮します。このため抗生剤と一緒に服用すると腸内細菌が働かなくなり下剤の効果は失われます。

本画はレグンドレによる1856年の作です。